



お礼の言葉

青柳 幸雄

本日は、ご多忙にも拘わらず酷暑の中を「青柳幸雄踏歴50周年記念パーティー」に多数ご来席賜りまして誠に有り難うございます。この様に盛大に記念パーティーを開催できましたのも、日頃からの皆様のお引き立てとご厚情によるものと深く感謝申し上げます。

一口に踏歴50年と申しましても長いようで短く、前半の25年は競技ダンスの選手としてダンスに情熱を傾け、栄冠を目指して無我夢中で青春のエネルギーを燃焼させていたばかりであったような気がいたします。

競技会に出だしたアマチュア時代、外人単独審査のサンケイ戦で思いがけず入賞できたこと、プロになってからの長年の夢であった英国留学で多くのことを学んだこと、長い期間中部日本チャンピオンの地位を維持することの精神的な苦しさ、等等。踏歴50年に占める楽しかったこと、苦しかったことの思い出の多くが現役選手時代にあったように感じられます。

体力の限界を感じて、一抹の寂しさを覚えながら現役選手を引退したのが、丁度25年前となります。

財団法人日本ボールルームダンス連盟の前身である日本競技ダンス連盟中部総局の局長を長年努めておりました私の父、青柳武男からは早い時期から教室経営を任されておりましたが、現役選手時代からも現役を引退してからも周りからは何かと父武男と比べられる場面が多かったように思います。

「親父は親父、俺は俺」と反発する気持ちもありましたが、踏歴50年を迎えた今では、その父の存在を素直に認められるようになった気がします。そこに至る心境の変化は、私は私なりにダンスを心から愛し、ダンスの為に一心不乱にやってきた、その情熱だけは絶対に誰にも負けるものではないという自分なりの達成感から得られたものだろうとっております。

現役引退後は、多くの才能豊かな弟子や生徒達に恵まれ、その中からは全日本レベルで活躍する選手も何人か現れ、後進の育成という面からは多少なりともダンス界に貢献できたかと満足しております。

今年4月からは図らずも財団法人日本ボールルームダンス連盟中部総局の局長に推挙され、就任することになりました。短い期間ではありますが、私のダンス人生の最後のお勤めであるとの覚悟で微力ながらダンス界の為に尽力したいと考えております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

最後になりましたが、長年公私共に私の良きパートナーとして、私を支えて来てくれた多美子に心からの「ありがとう」の言葉を述べさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。